



人ある限り人権を

やまびこ人権文化センターだより

2026

9

発行 やまびこ人権文化センター 倉吉市中河原 772-6 TEL/FAX 0858-28-4265

9月 やまびこサロン

楽しく♪レクリエーション活動

日 西鴨 9月10日(木)、天神野 17日(木)、
中河原二 24日(木)

時 午前10時～12時
(サロン終了後にデイを開催)

*小鴨コミュニティセンターとの共催事業

*内容はお楽しみに♪

〈持ち物〉身体を動かします。タオルや飲み物は各自でお持ちください。

9月は「身元調査お断り運動推進強調月間」

鳥取県では、重大な人権侵害や差別行為につながる身元調査をなくすため、毎年9月を「身元調査お断り運動推進強調月間」としています。

身元調査とは

例えば、結婚や就職など、その人にとっての大切な人生の節目に、本人の知らないところで、生まれや家柄、家族構成や素行、経歴、交友関係、生活の様子などを聞き合わせを興信所等によって調べる行為です。

私たちは、調査の目的等をよく把握して、人権を侵害したり、差別行為につながる調査に協力しないことが大切です。



中部地区 中学3年生が交流

8月19日(水)、上灘コミュニティセンターにて中部地区中学3年生交流会が開催され、約80名の生徒が集まり人権学習と交流を行いました。講師の鍋島しのぶさん(琴浦町人権教育推進員)による「無自覚の差別についてのワークショップ」で生徒は、何気ない行動や発言が差別につながることを知り、自身の言動を振り返る交流会となりました。



西中校区同和教育研究会 現地研修会

8月20日(木)、小鴨小学校と中河原二地区内において西中校区同研現地研修会が開催されました。

倉吉市人権文化センターの下吉所長から、繰り返された洪水から命を守る取り組み、部落差別をなくするために闘ってきた人びとの生き方やその後の小集落地区改良事業の取り組みについてお話を聞きました。

会員にとって、現地を実際に訪れ説明を受けることで、部落差別を自分の問題として考え、差別解消に向けた行動につながる貴重な機会になりました。

(小鴨川洪水の歴史を聞く)



倉吉市人権教育研究会の会員を募集しています

市民の多くの皆さんとともに、身近な人権課題に学び合う令和8年度の会員を募集しています。どなたでも加入できますので、皆さんのご加入をお待ちしています。

お申し込みは、年間会費お一人当たり1,000円を添えてお申し込みください。

問・申 やまびこ人権文化センター TEL:28-4265



入会特典「ミニ人権絵本」

困りごとや人権侵害ひとりで悩まないで 人権文化センターは身近な相談窓口です

人権文化センターはこどもから高齢者までのさまざまな人権問題や生活の困りごとについての相談に応じています。市の窓口や関係機関の紹介など対応していますので、気軽にご相談ください。差別落書き・差別発言などに遭遇されましたら、倉吉市人権政策課(☎22-8130)または、やまびこ人権文化センター(☎28-4265)にご連絡ください。





アンコンシャス・バイアスと性別役割分担意識

日常生活の中で「男だから」「女だから」という理由で、男女の役割や生き方を決めつけていませんか？
こうした考えは、自分でも気がつかないうちに身についている無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）から生まれることがあります。

1 アンコンシャス・バイアスは「見えない心の壁」

アンコンシャス・バイアスは、自分では気がつきにくい無意識の思い込みで、これまでの経験や価値観に影響されて身についたものです。本人が自覚していないため、相手を理解する前に無意識に判断してしまうなど、「見えない心の壁」となることがあります。

例えば…

- ・ 男女の性別によって仕事や役割を決めること
- ・ 学歴や年齢、国籍、肌の色などで相手を判断すること



2 性別役割分担意識とは

「女だから」「男だから」など、性別だけを理由に、男女の役割を固定的に決めつける考え方のことです。

例えば…

- ・ 男は仕事、女は家庭
- ・ 家事、育児、介護は女性の仕事
- ・ 組織のリーダーは男性の方が向いている
- ・ 営業は男性、女性は事務職が適している



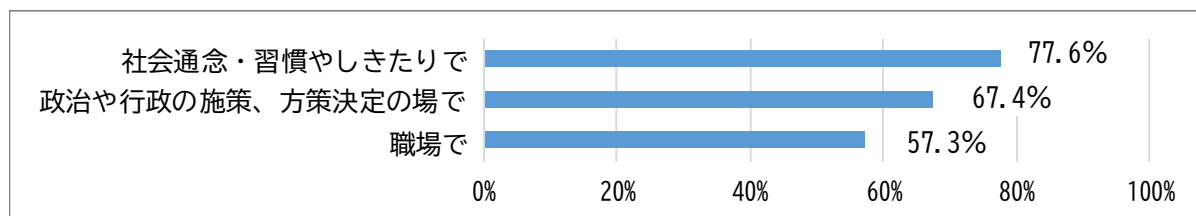
3 アンコンシャス・バイアスと性別役割分担意識の関係

性別役割分担は、アンコンシャス・バイアスの一つとして現れることがあります。例えば「男性は仕事、女性は家庭」のような考え方をあたりまえと思っている場合は、長年の生活や経験で身についた無意識の思い込みであることが考えられます。

4 市民意識調査結果から

令和6（2024）年度 倉吉市男女共同参画に関する市民意識調査から、学校、職場家庭、地域などの様々な場面における男女の地位の平等感について質問したところ、男女の地位が「平等ではない」（男性優遇）と答えた市民の割合は5割を超えており、令和元（2019）年度の調査時から大きな変化はありません。

■「平等ではない」と答えた市民の割合



立ち止まって考えることの大切さ

アンコンシャス・バイアスは誰もが持っているものです。お互いを尊重し、多様な生き方や考え方を認め合うことから、性別による偏見のない社会への一歩が始まります。性別に関わらず、一人ひとりが自分らしく生きることが出来る社会を実現するためには、「これは性別ではなく、その人自身を見て判断しているだろうか」と立ち止まって考えることが大切です。